

# 晩秋の校庭に、「赤とんぼ」の群れが舞う！

10月の下旬になると、朝夕の冷え込みが厳しくなり、気温がぐんっと下がりました。秋晴の昼間は20℃近くまで上がりますが、朝夕は10℃を切るようになってきました。昆虫たちもそろそろ冬支度を始めることで、赤とんぼたちも、お別れを言いに来たように、校庭を飛び回っています。赤とんぼと呼ばれる蜻蛉は何種類かいますが、今校庭に来ているのは、たぶんアキアカネですね。

## ●アキアカネ トンボ目 トンボ科 アカネ属

赤い色をしたトンボたちを通称「赤とんぼ」と呼びますが、アカネ科の間ではないものも入ると、15種類以上もいます。夏に学校のプールでよく見かけるシオカラトンボも雄は黒/青色ですが、雌は茶色(麦わら色)なので紛らわしいです。ショウジョウトンボが真っ赤ですが、夏のトンボで、この辺では秋には見かけません。

代表的な赤とんぼは、「アキアカネ」と「ナツアカネ」ですね。この2つはとても似ていて、捕まえて胸の模様を見比べないとわかりません。両方とも雌はあまり赤くならず、雄の方が赤いのですが、成長したナツアカネは顔まで赤くなりますが、若い時はあまり赤くありません。したがって色だけでは区別するのは難しいです。ただ季節的に、アキアカネは暑いのが苦手で、夏場は涼しい山の方にいて、秋になり涼しくなると平地に戻ってくるようです。ナツアカネは暑さに強く、夏でも山へは行かずに平地で生活しているので、清瀬付近では、6～9月頃に見られる赤とんぼは、ほぼナツアカネで、9～10月頃に見られるのは、アキアカネの場合が多いようです。今回、学校に来ていたのは、アキアカネのようです。



## ■アキアカネ と ナツアカネ の見分け方

いくつか見分け方があるようですが、図鑑などで紹介されている最もわかりやすいのが、体の模様の違いのようです。ただしこれも、模様の個体差があるので、紛らわしいこともあるようです。

アキアカネは、他の赤とんぼと呼ばれるトンボ類と一見良く似ますが、翅や頭の色や、胸の模様の違いによって区別することができます。

ナツアカネは、その中でも最もアキアカネと間違えやすい種ですが、胸の模様を見ると、アキアカネは2本ある黒い筋のうち前の筋の先端がとがっているのに対し、ナツアカネでは断ち切れたような形をしています。

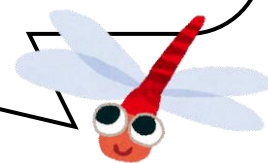
(環境省生物多様性センターHP より)



アキアカネ



ナツアカネ



■の赤とんぼの区別は、「羽の模様」や「お尻の先の形」などで出来ます。神戸の自然シリーズ(神戸市教育委員会)のHPを開いてみて下さい。

<http://www2.kobe-c.ed.jp/shizen/tombo/sympetrm/identify.html>

■【関連動画】NHK

②アキアカネの一生 [ミクロワールド]

[https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das\\_id=D0005100073\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005100073_00000)

①



②

